

宮坂建設
工業

安全、確実な作業を 忠別清水線の局改現場

【帯広】宮坂建設工業本社・帯広、宮坂寿文社長が帯広土現から受注して進めている忠別清水線交B9-14局改工事で、崩落の危険性のある岩石をヘリコプターを使って運搬する作業が、24日から行われている。砕いた岩を険しい急斜面から安全、確実に運び出すために選択した工法だ。山あいプロペラ音が響く現場を同日、藤田恵一工事事務所長と朝日航空札幌航空支社営業部の菊地隆英氏(営業グループリーダー)に案内してもらった。

忠別清水線のうち、新得町の十勝ダム上流部、東大雪湖沿いの270区間で、行われているこの工事は、道路脇の法面から風化して崩れやすくなった露出岩を撤去し、安全な道路交通を確保しようというもの。帯広土現からの発注を受け、宮坂建設工業が昨年9月に着工。3月中旬の完了を目指して、作業を進めている。

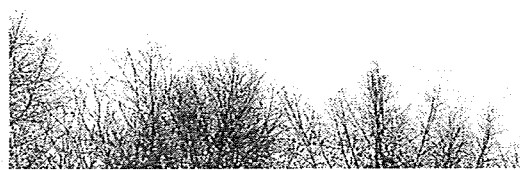
ヘリコプター使用し岩石搬出

施工面積は約4畝。現場で一番高い地点は、地上約170メートルに達する。まず直径1メートル以上の岩石を砕いてから運び出す作業へと移るが、この際、問題になったのが砕いた岩の搬出方法。

発注者側の積算では、ケーブルクレーンの使用が想定されていたが、作業場は平均傾度が40度の急傾斜地で、人力での運搬は困難な所。冬季施工となることもあり、藤田所長らはこの工法では災害や事故につながる危険性があると判断。安

全性を確保するための対策を検討する過程で、ヘリコプターを使う案が浮上し、土現側もこれを承した。その方法は、砕いた岩が一定程度たまればヘリでそれをつり上げ、高台に設けた仮設置場まで運ぶ。あとはトラックで所定の場所まで運搬することにし、ヘリの運行、管理を朝日航空に依頼した。昨年12月末に1回目の搬出作業を行って

足場を組んで移動用の通路や階段を設置。安全帯の使用も義務付けるなど、事故防止対策を徹底している。ヘリでの岩石つり上げ、荷降ろし時にも細心の注意を払い、通行する車両に危険が及ぶことがないように、落石防護柵も入念に張り巡らせた。



ヘリコプターを使った岩石の搬出作業。山間部の険しい地形、厳しい気象条件を克服し、安全で確実な施工を目指す

作業が始まった。ヘリの稼働時間は1日5時間から5時間半で、1回当たりの搬出量は約1ト。2月には3回目を予定しており、工期内に約1千トの岩石を撤去する計画だ。ヘリコプターを使う土木工事は珍しいが、やはり重要なのは安全の確保。不安定な足元を改善するため、

「最初から厳しい条件なのは分かっていること。無事工事を終わらすことが使命」。安全のために取り入れたヘリでの作業。最後まで気を抜かず、無事故無災害で乗り切るつもりだ。